

委託事業者独自事業

公民館・図書館
連携教育事業

東 分 館

公民館・図書館連携 教育事業	手製本体験で、本への理解を深めよう！ 一糸とじで仕立てるしかけ絵本一
-------------------	---------------------------------------

目 的	手製本を体験することで、本の作り方や構造を学び、本への理解を深めることを通して、子どもの読書活動を支援することを目的とします。
日 程	11月19日（日） 午後10時から正午まで
内 容	本の構造や名称を学ぶと共に、手製本体験として、オリジナルの絵本を製作するなどワークショップ形式で開催します。
講 師	本間 あずささん（製本家・空想製本屋主宰）
場 所	公民館東分館 学習室A・B
募集方法	市報10月15日号、チラシ、ポスター、市HP、東センターHP、東分館ツイッター 申込順 メール、電話または直接
対 象	市内在住・在学の小学3年生～6年生
人 数	募集 8人 応募 10人 受講 8人（男性0人、女性8人）
担当職員	倉本 恵子（公民館職員）、武井 真（図書館職員）

担当職員感想 子ども読書活動の推進を目的とした講座として開催しました。参加した子どもたち全員が、初めての手製本体験となりました。糸と針を使って本を仕立てる作業を通して、本の作り方を楽しみながら学んでいる様子が印象的でした。出来上がった本に、講師が準備した紙製の雪だるま等のクリスマスモチーフ貼ったり、絵を描いたり等、オリジナルのしかけ絵本を作製しました。

参加者感想 ○本を作るときにいろいろな材料やおり紙があって、自分が作りたい本ができて楽しかった。本のことについて学べてよかった。本を作るときには糸でとじるやり方もあることが分かった。

○今日は、自分の手で本を作ってわたしは、本ってざいりょうがあればかんせいさせることができることを知って「ぜひ、家でも作ってみたいな。」と思いました。

東 分 館

公民館・図書館連携 教育事業	学びのトビラ 夏目漱石『草枕』の世界 ～「非人情」とは何か～
-------------------	--------------------------------------

目 的 文学作品を愉しむことは、言葉の美しさに触れながら感性を磨くと共に、自身とは異なった視点から物事を見ることに繋がります。そして、名作といわれる作品は教科書を通して出会うこともあり、世代を超えて読み継がれているものもあります。今回、教科書で一部紹介されている『草枕』を中心に取り上げながら、夏目漱石の作品の魅力や鑑賞の方法を学ぶことを通して、教養の向上に寄与することを目的とします。

日 程 3月16日（土） 午後2時から4時まで

内 容 夏目漱石の代表作『草枕』を取り上げながら、作品の魅力や鑑賞の方法について座学形式で学習します。

講 師 松下 浩幸さん（明治大学教授）

場 所 公民館東分館 学習室A・B

募集方法 市報2月15日号、月刊こうみんかん2月号、チラシ、ポスター、市HP、東センターHP、東分館ツイッター
申込順、メール、電話または直接

対 象 市内在住・在勤・在学の方

人 数 募集 20人
応募 24人
受講 19人（男性13人、女性6人）

担当職員 倉本 恵子（公民館職員）、武井 真（図書館職員）

担当職員感想 夏目漱石の年譜を辿り小説の生まれた背景を確認しながら、作品のテーマについて考える講座となりました。質疑応答の時間では、質問も多数寄せられるなど、講師との活発な意見交換を通して作品の理解が深まった講座となりました。

参加者感想 ○大変興味深い講座でした。関連図書も読んでもう少し深く掘り下げてみたいと思います。年令的に自主グループに参加するのは難しいのでこういう講座を1年に2～3回続けていただけたらうれしい。いくつになっても学びのきっかけが欲しい。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	きたまちYAサポーター・ きたまちYAひろば
-------------------	---------------------------

目 的 図書館と公民館の連携事業で、社会教育施設の活用促進と、若者当事者が「きたまちYAサポーター」として参画し学年や学校を超えた仲間と居場所づくりにつなげる。

日程・内容

回	日程	内 容
1	5/19	新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止
2	7/17	「ブック de トーク」夏におススメの本とポップづくり、年間計画など
3	9/18	「ミステリー de トーク」ミステリーをテーマにした本やCDの紹介
4	11/20	「グルメ de トーク」グルメに関する作品紹介と感染症対策に配慮し、防災食ライスクッキーにデコレーション後、黙食など
5	12/18	「わたしのイチオシ！」小説、絵本、マンガなど、“自分が出会った中でイチオシ！”の作品を紹介
6	3/20	「絵本 de トーク」好きな絵本の紹介後、感染症対策に配慮し、ラテアートを作って楽しみ、黙食など

※いずれも日曜日、午前10時から正午まで

場 所 公民館貫井北分館 学習室CD

募集方法 市報5月1日号、ポスター、チラシ、貫井北センターHP、公民館貫井北分館ツイッター、図書館貫井北分室ツイッター
申込順 電話、メールまたは直接

対 象 者 小学校高学年から25歳くらいまでの方

人 数 中学1年生から大学2年生 9人（男性2人、女性7人）
延べ参加者 15人

担当職員 公民館貫井北分館 伊藤 智代子、高木 貴紀
図書館貫井北分室 苫米地 さやか、宇佐見 千映子

担当者職員感想 中学生が6人、高校生が2人、大学生が1人で、学校や学年を超えた交流をすることができました。また社会教育実習生など3人が第3回目に参加し、「ミステリーdeトーク」を楽しみました。

参加者感想 コロナ禍の経験から、自分の好きなことや心の動いたことを通して交流できる、きたまちYAひろばでの時間の濃さをより実感出来る気がします。学校や学年をこえて、また、地域という枠組みの中で出会い、つながれる面白さを知り、経験することができて良かったです。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	『選別』される社会～相模原事件をと おして＜問い・語る＞哲学対話 Part2～
-------------------	--

目 的 「相模原市障害者施設殺傷事件」のは「優性思想」「障害者福祉政策」「措置入院制度」など広範囲にわたる要素が内包されていた。平成27年1月、図書館貫井北分室との連携事業として、対話によりこの事件を「哀悼や抗議」ではない形で問い・語り合い後世に伝える講座を企画した。死刑執行と共に本事件が風化してゆくことも考えられるため、再び対話の場を設定して、この7年間で「体感したこと、実行したこと、覚えておきたいこと、忘れてしまったこと」について語り合う。

日 程 7月23日（日）午前10時から午前0時30分まで

内 容 （1）オープニングトーク（30分間）
新井副分室長が質問をして、登壇した講師2人と田中分室長、村山分館長がトークを展開。
（2）2グループに分かれて対話（90分間）
（3）参加者全体で振り返り（30分間）

講 師 中畑邦夫さん（哲学教師）、齋藤充さん（対話学舎えんたらいふ代表）

場 所 公民館貫井北分館 北町ホール

募集方法 市報6月15日号、チラシ、ポスター、貫井北センターHP、
貫井北分館ツイッター、込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ

対 象 どなたでも

人 数 募集16人
応募18人 受講16人

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、新井 剛



担当職員感想 講師のお二人がファシリテーターとなって展開されていた。7年前の哲学対話に比べて、参加者一人一人が他者の意見をよく聞いた後、発言されている印象を受けた。各参加者、自身の考え方の幅が広がったと思われる講座となった。

参加者感想 ○ 初対面の参加者と心を開いて対話ができる、よい機会をいただいた。「選別」を巡る多様な考え方を知りこれからも考え続けようと思った。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	第25回ビブリオバトル in ぬくきた
-------------------	------------------------

目 的 思いがけない本との出会いを企画として、知的書評合戦とも呼ばれる「ビブリオバトル」を、図書館連携事業で開催する。

日 程 8月5日（土）午後2時から4時まで

内 容

- ・テーマ「バディ～相棒・友情・仲間～」
※バトラーは2人1組で1冊の本を紹介（ペアの組み方は自由）
- ・ビブリオバトル公式ルールに則って開催
- ・発表4組で順番をくじ引きで決めた後、バトルを実施
- ・参加者全員の投票によりチャンプ本を決定し、賞状を贈呈
- ・発表本をお薦めするポップを作成
- ・ポップ、発表本とともに、図書館貫井北分室で展示

場 所 公民館貫井北分館 学習室A・B

募集方法 市報7月1日号、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、カラーチラシ（市内小中学校、小金井北高校、多摩科学技術高校、中央大学附属中・高校、小金井市観光まちおこし協会）、ポスター
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ ※観覧者は当日先着順

対 象 小学生以上の方

人 数

①発表者	募集	8組	参加	4組
※内訳	一般	6人	職員	2人
②観覧者	募集	30人	参加	3人

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、國田 純子



【表彰式の様子】

担当職員感想 今回は2名が1組のチームとしてバトルを実施した。社会教育実習生も実習の一環として発表する予定だったが、体調不良により欠席となった。参加者数の課題が残る一方で、少人数での開催の良さも感じられ、今後も連携事業として開催し続け、図書館事業と公民館事業の相乗効果を肅々と図りたい。

参加者感想

- パドラーのプレゼンのレベルの高さに驚いた。準備は大切ですね。
- 2人一組の発表も面白かったです。
- アットホームでよかった。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	第4回「死生観」を 語り合うひととき
-------------------	-----------------------

目 的 超高齢社会・多死社会を迎えて、死が身近な日常となる社会になりつつある。死について楽しく気軽に語り合うことで、ACP（人生会議、末期治療）の疑似体験をしていただく。

日 程 9月10日（日）午前10時～午後0時30分まで

内 容 （1）ACPの疑似体験が出来る「どせばいい？カード」（津軽弁）をクラウドファンディングで制作された高橋伸一さんによる講義。
（2）参加者を4グループに分けた後、「どせばいい？カード」を用いて死生観について語り合う。参加者全員で振り返り。

講 師 高橋伸一さん（中央福祉会特別養護老人ホーム三思園看護師長）
吉川直人さん（京都女子大学 助教）
小口千英さん（デスカフェ主宰者・看護師）

場 所 公民館貫井北分館 学習室A・B

募集方法 市報8月15日号、チラシ、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ

対 象 小学生以上

人 数 募集20人 応募14人 受講20人（講師3人、職員3人）

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、新井 剛

担当職員感想 参加者の年齢層が大学1年生の10歳代から90歳代までの幅の広い講座となった。4班に分かれてのワークショップでは各年齢層が考える死生観について互いに気づきの多い時間となったと思われる。

参加者感想

- 哲学的な話などが好きだったので参加してみた。大学生ということもあり、学校の外でいろいろな年代や背景をお持ちの方と交流する機会は刺激になりました。
- 死についてこのように考える機会がなかった。自分にとってとても良い機会になった。イベントを通して死生観が各自で異なっていることや若者が言う「死」とそれを聞いた大人が思う「死」が違うことに驚いた。とてもためになるイベントだった。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	「PIHOTEK 北極を風と歩く～荻田泰 永さん井上奈奈さんトークショー～」
-------------------	---

目 的 2023年日本絵本大賞受賞と造本装幀コンクール日本書籍出版理事賞を受賞された「PIHOTEK ピヒュッティ 北極を風と歩く」の著者 荻田泰永さん（北極冒険家・植村直己冒険賞受賞）／文と井上奈奈さん（「世界で最も美しい本コンクール」銀賞受賞）／絵による絵本創作過程や北極について語り合うお二人のトークを聞く。

日 程 11月19日（日）午後2時～4時30分

内 容 北極での様子、その冒険に基づいた絵本創作過程の様子をプロジェクターで動画映像を含めて紹介しながら対談で伺う。講座後、著作を持参された参加者に対してのサイン会を開催。

講 師 荻田泰永さん（北極冒険家）、井上奈奈さん（画家）

場 所 公民館貫井北分館 北町ホール

募集方法 市報11月15日号、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッターカラーチラシ（市内小中学校、小金井北高校、多摩科学技術高校、中央大学附属中・高校、東京学芸大学、書店、駅）、ポスター
申込順 電話、メールまたは直接 図書館貫井北分室へ

対 象 市内在住・在勤・在学の小学生以上の方 ※一般募集に切り替え

人 数 募集60人 受講 47人

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、白鳥 弥美

担当職員感想 参加申し込みが伸び悩み、様々な形での広報活動や募集を一般募集に切り替えたことで申込者が増えた。絵本創作のきっかけ、絵本に込められた思い、こだわりぬいた色彩・印刷などの制作工程など、会場でしか聞けない内容が多く、対談の魅力を改めて実感した。

参加者感想

- 深い命の話しが聞けてよかった2人のすごい人同士が関わるとすごいものができると思った。
- 恐怖に対しての客観的思考、環境に対する態度も参考になりました。
- 絵本とは具体的・説明的でないからこそ、読む人それぞれのとらえ方が可能になるのだと思った。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	新装オープンした生徒が家と呼ぶ『飯能 高校すみっコ図書館』その真相に迫る！
-------------------	--

目 的 図書館離れが生じる YA 世代（13 歳から 18 歳）を対象に、図書館や学校図書館では様々な取り組みを行っている。新しく生まれ変わった埼玉県立飯能高等学校図書館の高校を引き付ける特徴的な取り組みについて、学校図書館に関心のある方々を対象に講演会を開催する。

日 程 1 月 24 日（水）午後 2 時～4 時まで

内 容 高校の図書室で事業を企画、展開した学校主任司書を講師に招いて、課題の取組方法、解決方法について話を伺う。

講 師 湯川康宏さん（司書）

場 所 公民館貫井北分館 学習室 A・B

募集方法 市報 12 月 15 日号、チラシ、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ

対 象 学校図書に関心のある方

人 数 募集 40 人 応募 40 人 受講 40 人

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、庄司 由利子

担当職員感想 学校図書室を変えてゆきたいという思いが、講師の話から伝わる講座であった。予算の取り方、課題の捉え方、交渉相手との取り組み方など、現場で取り組まれている職員にとって参考になる内容。

参加者感想

- 7 年かけて「本が嫌いな子、苦手な子」を呼びよせて、本が好きな子と共存する図書館作りに驚きました。学校図書館の前に司書の土台がなければ捨てる物、守る物は見つけれられないのだと思いました
- 常識を覆す学校図書館経営と思いきや、貸出を通さずとも本を持ち帰れる「あなたを守る本」の設置など子どもに寄り添う姿勢に共感しました。NDC を使わぬ配架工夫など今後考えていきたいと思いました。
- 多くの困難を乗り越えてきたことが感じられました。「一人の生徒に役立てば良い／変われば良い」は素晴らしい発想ですね。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	第26回ビブリオバトル
-------------------	-------------

- 目 的** 思いがけない本との出会いを企画として、知的書評合戦とも呼ばれ「ビブリオバトル」を、図書館連携事業で開催する。
- 日 程** 2月10日（土）午後2時から4時まで
- 内 容** ①テーマを設定せず、公式ルールに則って開催。
②発表者10人で順番は五十音順とし、2回実施。
③参加者全員の用紙での投票によりチャンプ本を決定し、賞状を贈呈。
④発表本をお勧めするポップを発表者が作成し、発表本とともに図書館貫井北分室で展示。
- 場 所** 公民館貫井北分館 学習室A・B
- 募集方法** 市報1月1日号、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、カラーチラシ（市内小中学校、小金井北高校、多摩科学技術高校、中央大学附属中・高校、東京学芸大学）、ポスター
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ ※観覧者は当日先着順
- 対 象** 小学生以上の方
- 人 数** ①発表者 募集8人 発表10人
※内訳 大人3人、小学生5人、職員2人
②観覧者 募集30人 参加10人
- 担当職員** 公民館貫井北分館 村山 孝一（病欠）
図書館貫井北分室 田中 肇、庄司 由利子、國田 純子
- 担当職員感想** コロナ禍の影響を受け、担当職員が欠席となる。例年に比べると小学生の参加が多い大会となったが、観覧者の少なさが課題となった。
- 参加者感想** ○ 学校でも取り入れられていて、おもしろい物だなと感じた。
○ はば広い世代が参加しているなと思いました。前に別のビブリオバトルに参加したことがあります。雰囲気はまた違って、そういうのもおもしろいと思いました。
○ 思っていた以上に大人の方の紹介が、子供にもわかりやすいものがあったのがおもしろかった。
○ 自分の知らなかった本を知ることができるのがビブリオバトルのだいごみだと思います。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	絵本カフェ「つみきのいえ」を観て つくる・語るワークショップ
-------------------	-----------------------------------

目 的 アニメーションの『つみきのいえ』を観て、参加者それぞれの「つみきのいえ（人生の振り返り）」を作成し、語り合い、絵本『つみきのいえ』を参加者が輪読し参加者同士が交流を深める。

日 程 令和6年2月18日（日） 午前10時から12時まで

内 容 短編アニメーション『つみきのいえ』を鑑賞後、それぞれの「つみきのいえ（人生の振り返り）」を付箋で作り、作品について全員で対話をする。また、同じ制作者による絵本『つみきのいえ』を読み、アニメーションとの違いを語り合う。

講 師 齊藤充さん（対話学舎えんたらいふ代表）

場 所 公民館貫井北分館 学習室CD

募集方法 市報1月15日号、市内中学校図書館、本町小学校・第四小学校の5・6年生のみの全生徒配布、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 申込順

対 象 者 小学校5年生から25歳までの方

人 数 募集16人 応募6人 受講6人（女性6人）
延べ参加者 6人

担当職員 公民館貫井北分館 伊藤智代子
図書館貫井北分室 宇佐見千映子、苫米地さやか

担当職員感想 参加者6人に、職員2人が加わり、4人ずつのグループを作り、きたまちYAサポーターがファシリテーターとしてワークショップを行いました。

参加者感想

- 説明やおもしろい点などがわかりやすかったです。
- つみきの家という話をしらなかったなので、やさしいかんじの話をしれてとてもたのしかったです！人生についても考えられました！
- アニメーションのつみきのいえの余韻がすごかったです。作品のよさをワークショップを通して言葉にしていこうことでの発見を楽しめました！ありがとうございました！
- 絵本を深くあじわうことのできる良いきかいになりました。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	もしも「死にたい」と言われたらどう しますか？3月は命をささえる自殺対 策強化月間ー講義とロールプレーー
-------------------	--

目 的 図書館貫井北分室・公民館貫井北分館連携事業として、社会問題や人権問題に関連した講座を開催。毎年3月と9月は自殺対策強化月間である。この月に合わせ自殺予防として推進されているゲートキーパーについて学ぶ。

日 程 3月30日（土）午前10時から正午まで

内 容 もしも「死にたい」と言われたらどうしますか？の講義とロールプレー

講 師 有田 モト子さん （横浜いのちの電話スーパーバイザー／臨床心理士）

場 所 公民館貫井北分館 学習室A・B

募集方法 市報3月1日号、チラシ、ポスター、市HP、貫井北センターHP、
貫井北分室Twitter等
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ

対 象 どなたでも

人 数 募集30人 応募18人 受講18人

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇

担当職員感想 ロールプレイ（3人一組）で「話し手・聞き手・観察者」を実践したことで、参加者がそれぞれの場面で、本日学んだ傾聴を身近なところから実践してゆくように感じられた。

参加者感想

- 先生の話をお聞きしながら、自分の身の回りでの体験を思い浮かべていました。あの時、あんな風に行ってあげれば、とか、言って良かった、とか、答え合わせのように聞けて、思い返すきっかけとなりました。ロールプレイングもなかなか難しかったですが、話を訊く、聴く、聞くを意識できる良い体験でした。
- 具体的で良かった。ロールプレイは勉強になった。今はリアルではなくLINEで「死にたい」と伝えてくる人が多いのでその対応も知りたかった。
- ストレスが死につながるという発想なかったので気を付けたい。

貫井北分館

公民館・図書館連携 教育事業	第3回「死生観」を 語り合ってみませんか？
-------------------	--------------------------

目 的 超高齢社会・多死社会を迎えて、死が身近な日常となる社会になりつつある。今回は公民館を会場とした対面式ではなく、より語りやすいオンラインにて死生観を語り合う場を提供する。

日 程 5月7日（日）午前10時～午後0時30分まで

内 容 前半 講義「死生観とは？」吉川 直人さん（京都女子大学助教）
後半 （1）語り合い（70分間）
一般参加者の方々を吉川さんグループと小口さんグループの2グループに分ける。職員も2グループに加わって参加する。
（2）参加者全員で振り返り

講 師 吉川 直人さん（京都女子大学助教）
小口 千英さん（デスカフェ主宰者・看護師）

場 所 自宅 オンライン（Zoom会議システム）

募集方法 市報4月15日号、チラシ、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ

対 象 どなたでも

人 数 募集16人 応募11人 受講16人（講師2人、職員3人）

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、新井 剛

担当職員感想 語りやすい環境が整っていたこともあり、様々な考えや観点を深く聞かせていただき、各参加者の視野が広がったような講座となった。知的欲求を満たす座学の主催講座だけでなく、参加者同士がゆっくりと語り合う講座の意義も回を重ねる度に毎回感じる。

参加者感想

- 自分なりに死との向き合いと、捉えました。非常に簡単には語れない、何かを感じました。死ぬのは、少し怖いですが穏やかに迎えたいと思いました。
- 日頃感じていたことを話す機会を得たことは良かったです。他の方の経験のお話も勉強になりました。
- 死にまつわる体験を聞けて良かったです。